

学燈 *gakutou*



【第15号】

～実践研究中間発表会・成果報告会を開催しました～

【中間発表会 1年生】

中間発表会 教育実践開発コース（学部卒1年生）	
斎藤 僚人	主体的に課題を発見し、他者と協働して課題を解決する力の育成をめざす 学校・家庭・地域の連携・協働の在り方
藤野 真江	自己表現ができる子どもの育成
山本 拓実	小学校算数科におけるつまずきに着目した授業デザイン
渡部 咲果	国際理解の視点を取り入れた外国語教育の在り方
中本 初季	教科等横断的な要素を取り入れた外国語の授業提案
松村 悠	「思考を共有する数学的活動」について
深川 修	対話を重視した ICT 活用における生徒の理解度向上 －中学校数学科および特別の教科道徳の授業実践を通じて－
西村 幸大	国語科における「言語感覚」を豊かにする授業提案
中間発表会 学校経営コース（現職教員1年生）	
用殿 正和	阿武町「ONE TEAM」による教育の推進に向けた校種間連携の在り方
松本 純治	組織で取り組む持続可能な教育システムの構築 －生徒が主体者、当事者として企画・運営・評価を進める学校づくりを目指して－
中田 健一	コミュニティ・スクールを核とした「社会に開かれた教育課程」の編成・実施・検証 －地域連携活動を通して自己肯定感を高める－
中本 隆之	マネジメント・マインドを高めた次世代リーダーの育成 －学校・地域・行政のミドル世代協働組織による「みね型」地域連携教育の推進を通して－
宮内 朋子	学校の活性化につながる小中一貫教育のあり方 －やまぐち型地域連携教育の仕組みを活用した学校組織マネジメントを通して－
渡邊真弥子	地域資源を生かした学校の地域づくりへの参画 －スクール・コミュニティによるつながりづくりの理論と実践－
廣田 恵子	誰もが行きたくなる学校の在り方とは －マネジメント力の育成を通して－



中間発表会 特別支援教育コース（学部卒1年生・現職教員1年生）	
村上 遥	知的障害特別支援学校における外国語教育の可能性
河野 宏輝	公立小学校における学級規模ポジティブ行動支援の実践
島田 雅子	特別支援学校高等部における効果的なキャリア教育 －協働によるコミュニケーション力向上を目指して－



【成果報告会 2年生】

成果報告会 教育実践開発コース（学部卒2年生）	
青木 達也	正統的周辺参加論に基づいた学びについての検討 －小学校社会科を事例として－
川島幸太郎	生徒の日常に関連させて考える数学の授業づくり －授業づくりの基礎基本を探る－
烏田 宙明	中学校数学科で身に付ける資質・能力を意識した授業の構築
竹内 萌茄	家庭科における批判的思考力を培う授業
島 優平	数学教育におけるアクティブ・ラーニング
最上 翔流	中学校理科におけるコミュニケーションを重視した授業づくり
河野 智寛	科学的概念の形成を重視した理科授業の研究
小松 周平	理科学習における内化と外化の学習サイクルに関する実践研究
西村祐一郎	子どもが学習課題を共有し、追求する社会科の授業づくり
成果報告会 学校経営コース（現職教員2年生）	
原田 清孝	「チーム学校」を効果的に組織・運営する方策について
森川 和美	組織で取り組む小中移管教育の推進 －縦・横・斜め3つのつながりを意識した組織的アプローチ－
小倉 好勝	教職員の自己研鑽力を生かした学校づくり －チーム体制によるOJTを活用した主体的に学び合う教職員集団をめざして－
中原 育代	マネジメント思考型ルーブリックを用いた自己有用感高度化計画の推進
河野 純志	児童生徒が良さを実感できる小中一貫教育のあり方 －施設分離型小中一貫教育の見える化を通して－
小森 晃子	めざす子ども像『夢チャレンジャー』育成に向けた中学校区としての組織的取組の在り方 －小中連携組織と地域教育ネットの仕組みを生かして－
森山 龍夫	質の高い教育プログラムを創造するサークル活動 －授業改善と地域活性化の双方を見据えることの重要性について－
成果報告会 特別支援教育コース（学部卒2年生・現職教員2年生）	
上杉 瞳	行動記録に基づく事例検討を軸とした教員専門性向上の取組 －次代の特別支援教育を担う人材の育成－
山本 彩織	特別支援学校に在籍する自閉スペクトラム症の児童生徒に生活スキルを形成する支援の在り方について



～教職大学院での1年間の学び～

【教職実践開発コース 1年生】

コロナウイルスの影響で8月からの実習となったが、自身の研究教科である外国語の授業を担当する機会を数多く得ることができ、充実した経験となった。学部の教育実習とは違って教職大学院では実習校の指導教員の先生に指導を受けるだけではなく、大学院の先生方に私の授業を見ていただき、その後個別指導をしていただいている。さらに、実習校で疑問に思ったことを大学院や経営コースの先生方に直接聞くこともでき本当に良い環境で学ぶことができ感謝している。大学院での授業を通して自身の研究テーマである外国語教育についても様々な角度から見つめ直すことができた。私はこの1年間目の前にいる子ども、そして自分の成長のために「省察」を繰り返し行い、よりよい授業ができるようになりたいと日々授業改善に取り組んできた。このように理論と実践の往還を1つの軸として「省察」の大切さに気付けたことが教職大学院1年目での大きな学びであると実感している。今後はこれまで以上に学校実習での実践と大学での学びのつながりを意識し、現場に出た1年目から一人前の教師として見られるよう精一杯頑張っていきたい。



【学校経営コース 1年生】

この1年間は、将来が予測困難な時代を生きる子どもたちのために、学校教育がどう変化していかなければならないのかを学んだ1年間であった。学校現場では日々が慌ただしく過ぎ、社会の変化に合わせて教育の在り方も変化していたことに鈍感になっていたと思う。しかし、教職大学院で、講義や様々な場面で大学の先生方のお考えに触れたり、他の院生と意見を交わしたり、各方面で活躍されているリーダーの先生方のお話を聴いたりする経験を得て、教員として学び続けることの大切さについて知ることができた。また、大学院での講義と原籍校での学校実習を同時に進行することで、学校現場の課題を見つけ、大学院での学びを生かして現場に還元する役割も与えていただいた。残り1年だが、より深く教育課題について研究し、さらなる成長が図れるように、仲間とともに研鑽に励みたい。



【特別支援教育コース 1年生】

本当にあつという間の1年間であった。入学当初、多くの院生の意識の高さや、経験値の高さに驚き、自身の勉強不足を痛感した。週2日間の学校実習では、学部時代の教育実習と比べ、自由度が高く、自身で学びのチャンスを掴まなければならないと思った。実地授業だけではなく、実習校の先生方と一緒に授業の単元計画を考える機会もいただいた。学部時代よりも求められるレベルが高くなっている分、授業の立案、検討にさらにやりがいや達成感を得ることができた。講義では、他コースの院生とも関わる機会があり、他校種・他教科の意見に触れることができ、子どもへの向き合い方や授業での振舞い方等を学ぶことができた。中間発表会では、実践研究にまだまだ多くの課題があることを認識することができ、残りの1年でさらに成果を積み上げることに尽力したいと思う。今後は、講義で学んだことを学校実習で生かす等、理論と実践の往還も意識して学びを深めていきたいと思う。



～教職大学院での2年間の学び～

【教育実践開発コース 2年生】

教職大学院を修了しようとしている。この2年間で振り返り、経験や学びについて整理していきたい。週2日の実習は、学部頃と比べ余裕をもって臨むことができた。初めての現地授業では、第一指導教員から手厚いご指導をいただいた。学部時代に学んできたことや教わってきたことよりも、はるかに求められるレベルが高く、驚いたことを覚えている。驚きと同時に、この2年間で自分の力を大きく伸ばすことができると確信し、嬉しくも思った。講義では、他コースの先生方や同期の院生と議論を重ねてきた。他校種・他教科からの意見に触れ、子どもを広く捉えることができるようになった。さらに教員に求められる姿勢についても講義の中で深めていくことができた。来年度からは実際に教員として現場で働くことになる。不安も大きい。しかし、私は教職大学院で多くのことを学び、経験してきた。求められるレベルの高さに戸惑い苦しむこともあった。私には、それらを乗り越えてきたのだという自信がある。そして、共に乗り越えてきた同期がいる。教員になっても、同期と切磋琢磨しながら高め合い、自信を持ちながらも謙虚に、貪欲に学び続けていきたい。



【学校経営コース 2年生】

教職大学院の2年間で一言で表すと「パワーアップ!」である。時代の流れが変化し、教育現場も多様化が進み、経験だけでは対応できないことが増えている。教育業界に渦巻く課題を真摯に学び、対話形式の授業で、忌憚のない意見を交わすことで深い学びとなり、とても有意義であった。大学院の学びが自分自身の「学び直し」・「見つめ直し」の機会につながり、一緒に学んできた仲間たちの存在も大きな支えとなり、大きくパワーアップしたと実感している。たくさんの人の支えがあり今の自分があることを忘れてはいけない。2年間の学びや経験を学校現場に還元することはもとより、山口県の教育を背負っていく立場にあることを自覚し、時代の流れに負けない子どもたちを育てる学校を守り創っていくことが使命となる。改めて、この2年間の学びに感謝をし、山口県教育の現場で活躍することで、恩返しをしていきたい。



【特別支援教育コース 2年生】

新設の特別支援教育コースが2年目を終えようとしている。院生2名（現職&ストマス）でスタートし、1期生として新しい道を常に切り開いてきた。この2年間で振り返ると、どの場面でも周囲の温かい支えの中で進んできたことに改めて気付く。合同授業での現職とストマスの世代を超えた意見交換も貴重な経験であり、良い刺激を受ける環境であった。教職大学院は、エビデンスに基づいた教育実践力を身につける場、“学び方”を学ぶ場であった。特に、子どものポジティブな行動を教員がポジティブに支援するPBSの考え方は、教員としてブレずに進んでいく軸になると実感している。特別支援教育の理念は、子ども一人ひとりの教育的ニーズを把握しそのもてる力を高めることである。子どもが発信するメッセージをニーズとして受け止め、障害のある子どもたちの目線に立って支援し続けたい。在籍校等が抱える課題解決に挑むことが、次の学びのフィールドであり、これからも常に自分をアップデートしフレキシブルな視点で実践していきたい。



令和2年度 教職実践高度化専攻（教育実践開発コース・学校経営コース・特別支援教育コース）の1年間

◎…原籍校や教育委員会での実践 ★…コース別研究会 ◇…試験関係

月	主な行事	教職実践高度化専攻			
		教育実践開発コース (学部卒)	学校経営コース (現職教員)	特別支援教育コース	
				(現職教員)	(学部卒)
4	・入学式(今年度は中止) ・オリエンテーション 「大学院概要」「学校実習概要」	★オリエンテーション ◇教採対策勉強会	★オリエンテーション	★実践研究の進め方	★オリエンテーション
5		★学部の教育実習と教職大学院の 学校実習の違い ◇教採対策勉強会 ★課題研究に関する情報交換(中止)	◎原籍校や教育委員会での実習中心 ★学校組織を活性化するマネジメント	◎原籍校や教育委員会での実習中心 ★エビデンスに基づいた実践	
6	・全員研究会「学校実習に必要なこと」				
7		◇山口県教員採用試験(1次) ・くだまつワイライトセミナー	★実践研究に係る発表及び質疑応答	★実践研究に係る発表及び質疑応答①	★実践研究に係る発表及び質疑応答 M2
8		◇教採二次試験直前の個人面接演習 ◇山口県教員採用試験(2次) ・山口県地域連携教育推進協議会	つば集中講義「学校組織マネジメント指導者養成研修」(オンライン)		
9			◎原籍校や教育委員会での実習中心 ★教育行政インターンシップ報告会	◎原籍校や教育委員会での実習中心 ★教育行政インターンシップ報告会	★実践研究に係る発表及び質疑応答 M1
10		★後期学校実習目標設定、 これまでの学校実習の振り返り	★今後の人材育成について	★特別支援教育の専門性向上に向けた実践 的対応	★実践研究に係る発表及び質疑応答 M2
11	・岩国ひがし学園小中一貫教育研究発表大会 ・山口地区学園幼小中一貫教育実践研究発表 大会(中止) ・教職実践高度化専攻入試	★課題研究の進捗状況	◎原籍校や教育委員会での実習中心 ★コロナ禍における、管理職として大切に したい視点と手立て	◎原籍校や教育委員会での実習中心 ★特別支援学校における組織力向上の取組	
12	・中間発表会・成果報告会リハーサル	★中間発表会・成果報告会にむけて	★理想のリーダー、リーダーシップ	★実践研究に係る発表及び質疑応答②	★実践研究に係る発表及び質疑応答 M1、M2
1	・実践研究中間発表会(M1) ・実践研究成果報告会(M2)				
2	・附属光小中学校オンライン公開授業研究会 ・やまぐち教育フォーラム(オンライン) ・教職実践高度化専攻入試		◎原籍校や教育委員会での実習中心	◎原籍校や教育委員会での実習中心	★実践研究に係る発表及び質疑応答 M1
3	・教職大学院修了祝賀会「学燈会」 ・修了式	★1年間・2年間の振り返り	★1年間・2年間の振り返り	★1年間・2年間の振り返り	★1年間・2年間の振り返り

学校実習
中止

学校実習
中止

学校実習